

第1章 宇都宮市・芳賀町の概況

1-1 位置及び地勢

宇都宮市及び芳賀町は、ともに東京から北側に約100kmの距離にあります。

広大で肥沃な関東平野のほぼ北端に位置し、高台からは南に関東平野の地平線、晴れた日には富士山の雄姿を、また、北西には日光連山を望むことができます。

交通体系を見ると、南北方向には東北新幹線、東北自動車道、国道4号が通り、東西方向には北関東自動車道が通るなど、主要な交通が交差する要衝にあります。

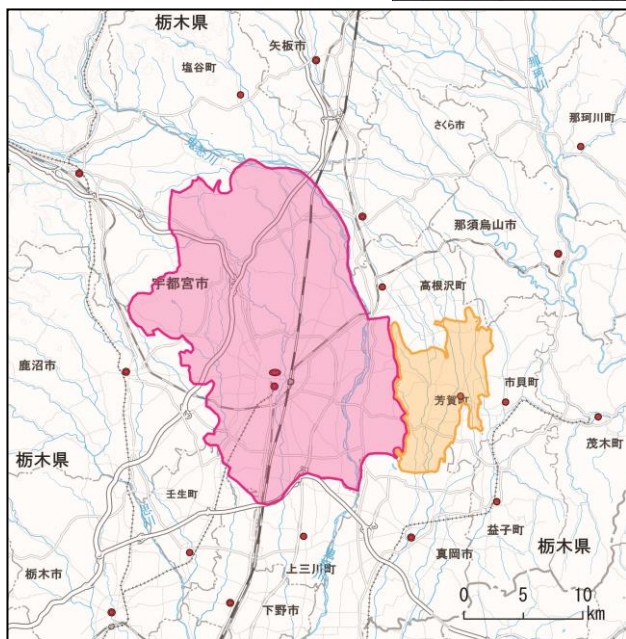
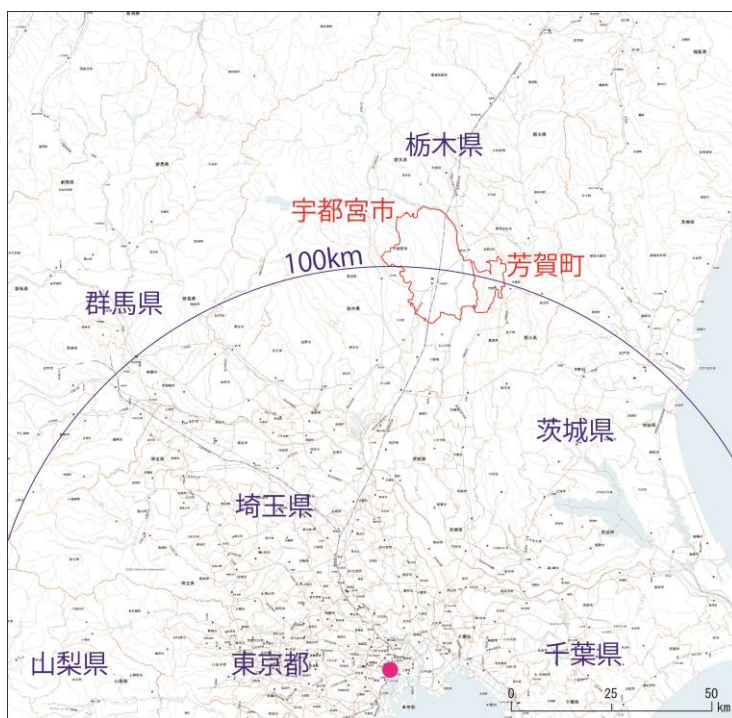


図1-1 宇都宮市・芳賀町の広域的な位置

1-2 宇都宮市・芳賀町の沿革

(1) 江戸～明治

① 門前町・城下町・宿場町としての隆盛

宇都宮市は二荒山神社の門前町として、中世には宇都宮氏の城下町として栄え、江戸時代には奥州街道と日光街道の要衝として隆盛を極めました。

特に宇都宮城下は「小江戸」と呼ばれるほどに宿場の商業が繁栄を極め、産物の面では絹が盛んに織り出され、堅牢で色あせない特徴から販路を遠く奥州にまで伸ばしていました。また、酒・みそ・しょうゆの醸造も盛んに行われ、たばこ・うちわ・傘などの日用品の生産も活発でした。

② 戊辰戦争による城下焼失、そして県都復興

慶応4年4月、戊辰戦争によって宇都宮は灰燼に帰し、人影がほとんど見られないありさまとなりました。

明治17年に県庁が宇都宮に定まると、東北本線、日光線の開業と相まって県都として政治経済の中心となり、人口も大幅に増加し、明治22年に町制施行、29年に市制施行となりました。



図 1-2 戊辰戦争時の二荒山神社

(2) 明治～終戦

① 軍都としての成長

明治41年以降、宇都宮に14師団が移駐し、駐屯地の建設工事が地元業者の請負事業となりました。また、駐留部隊の消費需要は当時の市予算の4倍に上り、日露戦争後の不況下において街を支えることとなりました。

宇都宮が「軍都」としての性格を帯びるなか、軍用道路や大通りの整備が進み、宇都宮の街の骨格を形成していきました。同時期に、電気や電話、ガス、上水道の供給が始まり、市民生活が大きく向上していきました。

② 未曾有の大不況と重化学産業への渴望

第一次世界大戦後の未曾有の大不況下においては、「今や全ての都市機関を一応具備しているものの、地方的消費都市として小売小商売が本体であって、なんら生産的企業の見べきものがないことは、市の将来の発展に大いなる望みをかけ難いところであり、今後生産都市への転向が確かに市の将来性を決定する重要な条件である。(宇都宮市地誌)」といった状況でありました。

また、日中戦争下の資材不足により、軽工業中心の宇都宮の産業は大きな打撃を受け、重化学部門の工場誘致が叫ばれることとなりました。

③ 戦火により再び市街地は焦土と化す

戦時下において、立地の良さから宇都宮に軍需生産関係の工場の移転、創設が相次ぎますが、そのために、昭和20年7月に宇都宮は大空襲を受け、再び市街地は焦土と化しました。



図 1-3 宇都宮駅に向かう兵士たち



図 1-4 大空襲後の宇都宮の市街地

(3) 戦後

① 目覚しい復興と昭和の大合併

宇都宮は「復旧率日本一」と評されるほどの短期間で市街地を復旧させていきました。

昭和の大合併により、宇都宮市は周辺の河内郡、芳賀郡の11町村（清原村を含む）と、芳賀町は祖母井町・南高根沢村・水橋村が合併し、さらに平成19年に宇都宮市が上河内町・河内町と合併し、現在の市町域となりました。

② 国内随一の内陸工業都市への変貌と発展

昭和47年に東北自動車道の開業、昭和55年に新4号国道開通、昭和57年の東北新幹線開業と平成3年東京駅乗り入れなど、広域交通機関の整備が進むなか、宇都宮市では、宇都宮工業団地や内陸では最大規模の清原工業団地等の造成など、積極的に工業振興策を推進し、念願であった重化学産業の誘致に成功しました。また昭和59年には、「宇都宮テクノポリス」の地域指定を受け、生産基地から頭脳基地への脱却、産・学・住が有機的に結ばれたまちづくりを進め、芳賀町では芳賀・高根沢工業団地、芳賀工業団地が形成されました。

これらの工業団地からの税収は、平成26年度において宇都宮市の地方税の歳入の約7%、

芳賀町の地方税の歳入の約63%を占め、市や町の雇用や税収を支える極めて重要な産業拠点となっています

③ 工業団地と市街地間の移動円滑化は地域の生命線

宇都宮の市街地においては、二荒山神社やJR宇都宮駅周辺整備、県総合文化センター、宇都宮城址公園の整備など、市民・町民や県民にとって必要な様々な都市機能の充実が図られるとともに、宇都宮餃子会の発足など、全国に発信する新たな魅力創出の取組が進められています。また、工業団地においても、清原球場や清原体育館、グリーンスタジアムが完成し、生産拠点としての機能以外の都市機能の充実が進められてきました。

現在、清原、芳賀、芳賀・高根沢工業団地と宇都宮の市街地間は、多くの市民・町民が日常生活の中で移動しており、それらを支える道路・橋梁の整備を進めてきたところではありますが、通勤時間帯を中心に依然として交通渋滞が発生しており、宇都宮市と芳賀町が連携し、宇都宮東部地域及び芳賀町の区域において、東西基幹公共交通の導入やそれを機軸とした公共交通ネットワークの構築を進め、各工業団地と宇都宮の市街地との間の移動の円滑化により工業団地の維持・向上を図っていくことは、宇都宮市や芳賀町にとっての生命線であると言っても過言ではありません。



図 1-5 清原工業団地



図 1-6 通勤時間帯の交通渋滞

表 1-1 宇都宮市・芳賀町の人口の推移

	宇都宮市	芳賀町
明治 29 年	35,233 人	—
昭和 20 年	80,477 人	20,521 人
平成 26 年	519,904 人	16,016 人

表 1-2 宇都宮市・芳賀町の工業出荷額の推移

	宇都宮市	芳賀町
昭和 35 年	18,122 百万円	58 百万円
平成 25 年	1,810,262 百万円	172,473 百万円

1-3 夜間人口・従業員人口

市街化区域は、宇都宮市の中央部から鉄道や幹線国道沿いに広がっており、また東部の工業団地周辺も市街化区域となっています。

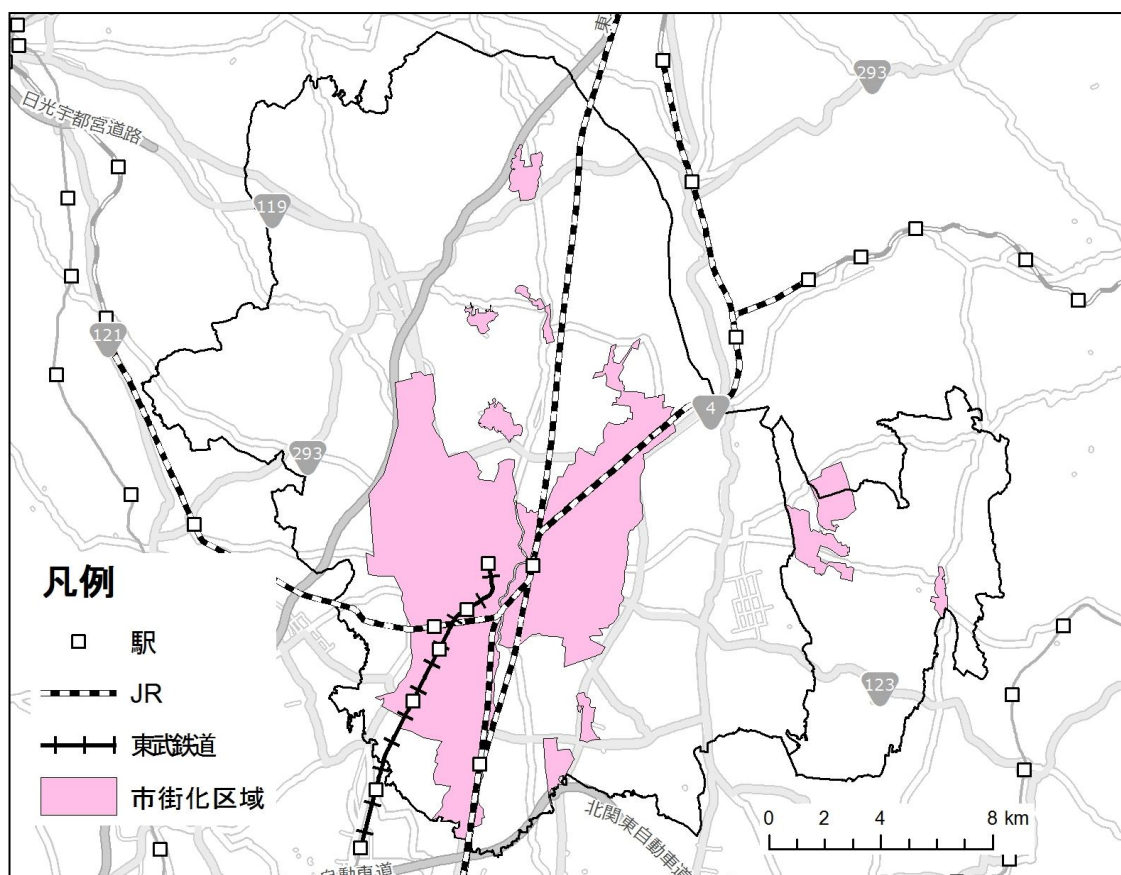
夜間人口は、宇都宮市が約 52 万人、芳賀町が約 1.6 万人となっており、従業員人口は宇都宮市が約 24 万人、芳賀町が約 2.4 万人となっています。

芳賀町の従業員人口は、夜間人口の 1.5 倍以上であり、町外からの通勤者が多い状況となっています。また夜間人口と従業員人口の分布については、東部の工業団地エリアに大きな差が見られます。

芳賀町の従業員数の約 4 割は宇都宮市からの通勤者であり、また芳賀町の夜間人口の約 2 割が宇都宮市へ通勤・通学者であるなど、宇都宮市と芳賀町の相互の結びつきは強く、特に清原、芳賀、芳賀・高根沢工業団地は、市民・町民の従業員地として重要な拠点となっています。

表 1-3 宇都宮市・芳賀町の人口

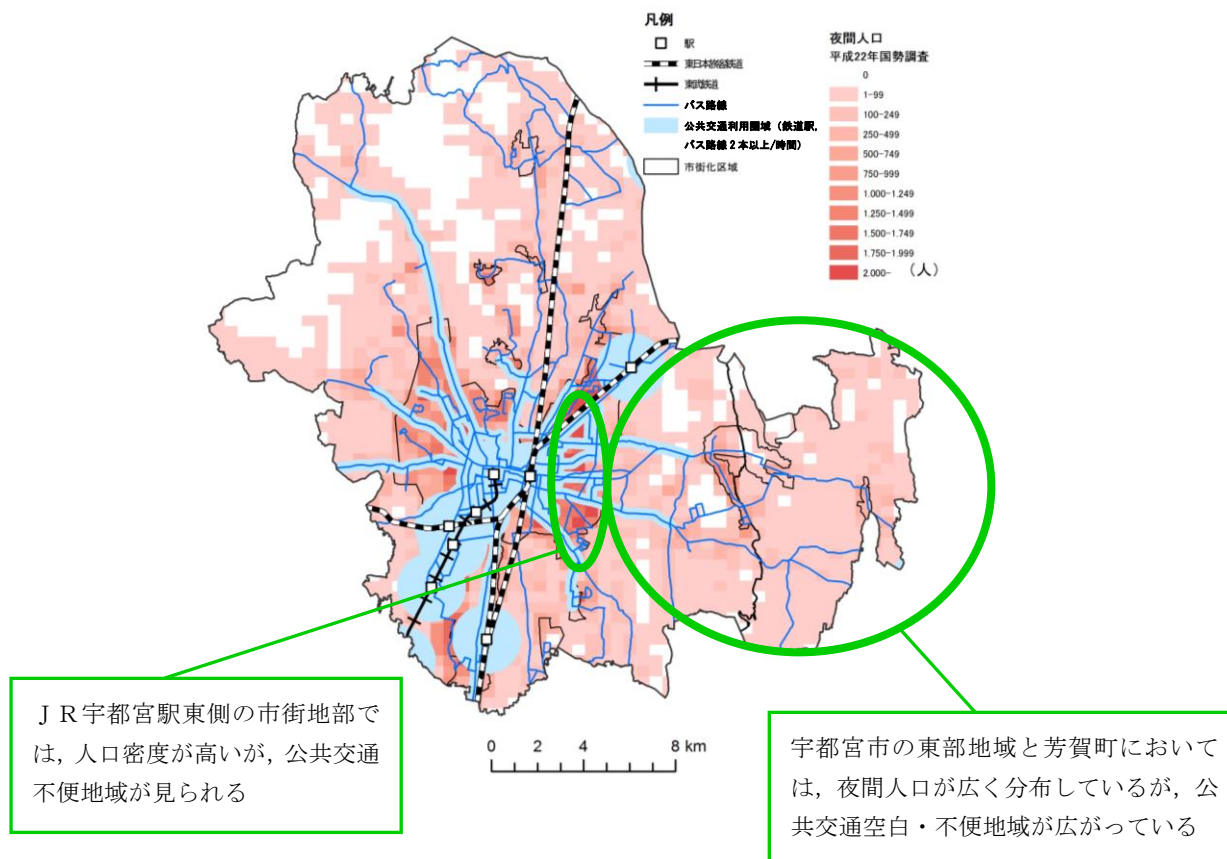
	宇都宮市	芳賀町	備考
夜間人口	519,904 人	16,016 人	平成 27 年 3 月末 住民基本台帳
従業員人口	236,927 人	23,505 人	平成 24 年経済センサス基礎調査



資料：宇都宮市・芳賀町都市計画図

図 1-7 宇都宮市・芳賀町の市街化区域

<夜間人口と公共交通>



<従業人口と公共交通>

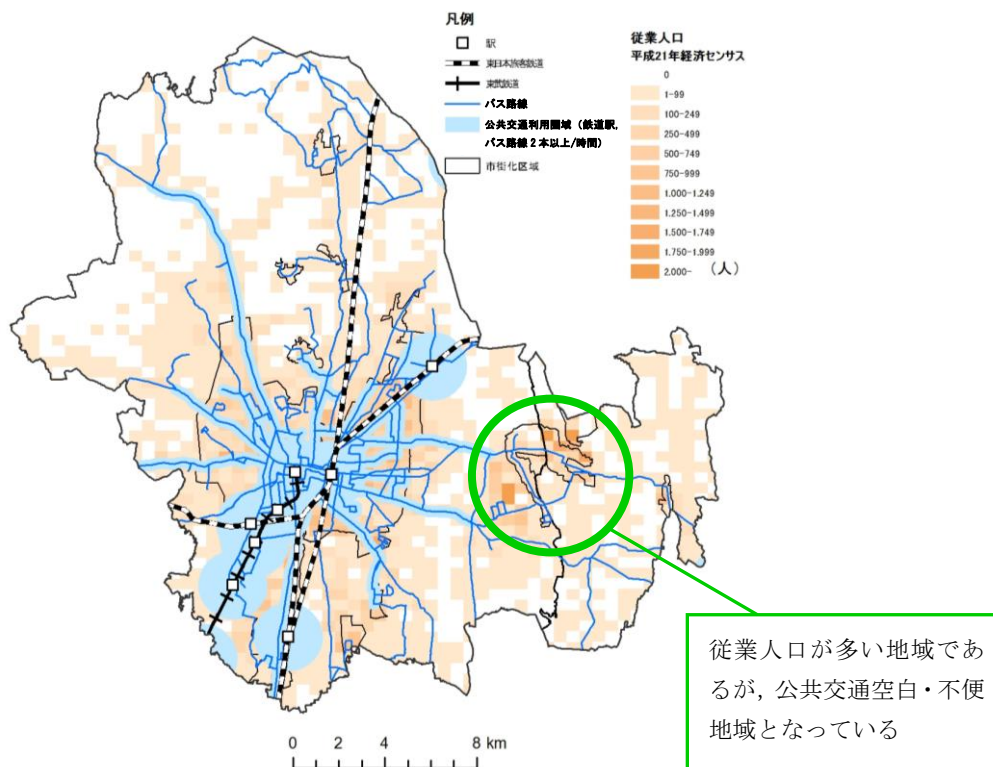


図 1-8 夜間人口・従業人口と公共交通の分布

1-4 産 業

(1) 工業団地の概要

宇都宮市に位置する清原工業団地は宇都宮市で最も規模が大きく 9.5 千人の従業員数を誇ります。また、芳賀町に位置する芳賀工業団地、芳賀・高根沢工業団地の従業員数は計 21.7 千人と、宇都宮市の5つの工業団地（計 17.0 千人）を上回る従業員数を誇ります。

清原、芳賀、芳賀・高根沢工業団地における主要企業をみると、キャノン、ホンダをはじめとした世界規模の企業が多く立地しており、我が国を代表する工業団地となっています。

県内工業の事業所数や従業者数は減少傾向にあり、宇都宮市及び芳賀町の工業団地においても近年は横ばいもしくは減少傾向にあります。



図 1-9 清原工業団地 (387.6ha)



図 1-10 芳賀、芳賀・高根沢工業団地 (475ha)

表 1-4 宇都宮市・芳賀町の工業団地の概要

【宇都宮市の工業団地】

	工業団地名	従業者数	事業所数	備考
宇都宮市	宇都宮工業団地	5.2 千人	61	平成 25 年 12 月 31 日現在
	瑞穂野工業団地	1.1 千人	47	平成 25 年 12 月 31 日現在
	清原工業団地	9.5 千人	39	平成 25 年 12 月 31 日現在
	河内工業団地	1.0 千人	11	平成 25 年 12 月 31 日現在
	河内中小工場団地	0.2 千人	9	平成 25 年 12 月 31 日現在
合計	5ヶ所	17.0 千人	167	

参考：工業統計調査

【芳賀町の工業団地】

	工業団地名	従業者数	事業所数	備考
芳賀町	芳賀工業団地	9.6 千人	96	平成 25 年 4 月 1 日現在
	芳賀・高根沢工業団地	12.1 千人	4	平成 25 年 4 月 1 日現在
合計	2ヶ所	21.7 千人	100	

参考：芳賀町資料

【宇都宮東部地域・芳賀町の工業団地の規模】

	工業団地名	従業者数	事業所数	備考
宇都宮市	清原工業団地	9.5 千人	39	
芳賀町	芳賀工業団地	9.6 千人	96	
	芳賀・高根沢工業団地	12.1 千人	4	
計	3ヶ所	31.2 千人	139	

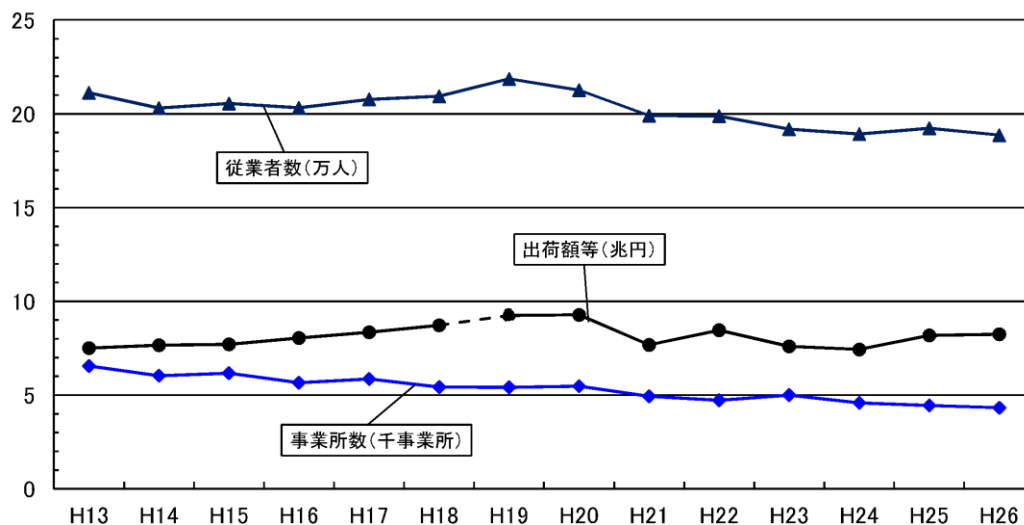
表 1-5 清原，芳賀，芳賀・高根沢工業団地の主要企業（従業員数トップ5）

	清原工業団地	芳賀工業団地	芳賀・高根沢工業団地
1	キャノン(株)	ホンダエンジニアリング(株)	(株)本田技術研究所
2	カルビー(株)	(株)ホンダテクノフォート	(株)オートテックジャパン
3	中外製薬工業(株)	(株)リブドゥコーポレーション	本田技研工業(株)
4	日本たばこ産業(株)	本田技研工業(株)	(株)ホンダアクセス
5	清原住電(株)	ホンダ開発(株)	—

資料：栃木県産業団地立地企業一覧（平成 26 年度版）

＜工業従業者数の推移＞

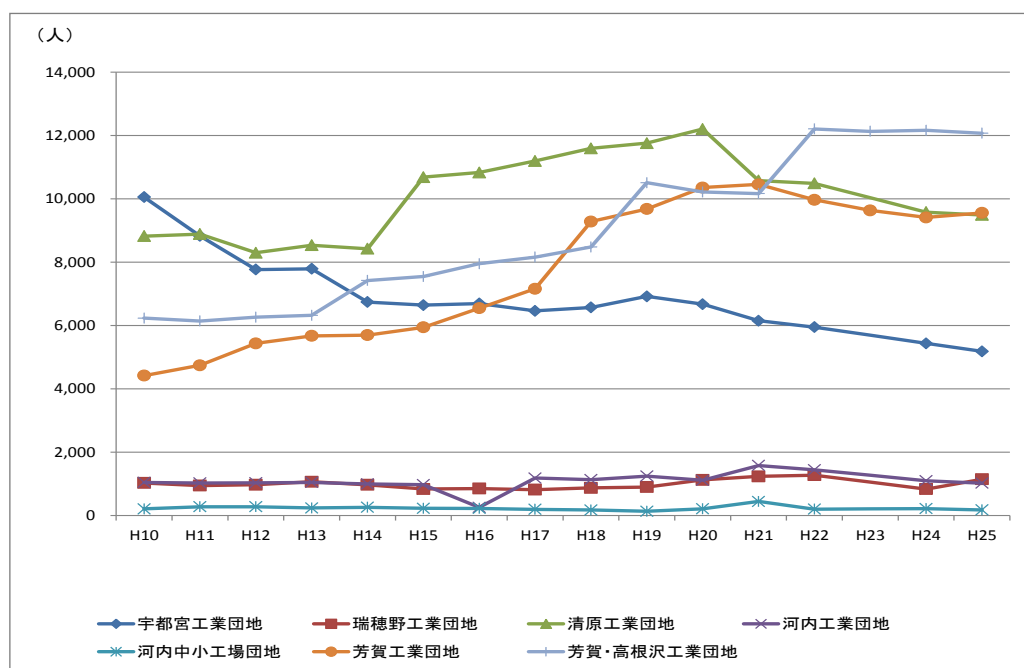
県内の工業の事業所数、従業者数は減少傾向にあり、宇都宮市及び芳賀町の工業団地従業者数も、近年では横ばいもしくは減少傾向となっている。



(注) 平成19年調査において調査項目を変更したことにより、製造品出荷額等は、平成18年以前の数値と平成19年以降の数値は接続しません。

出典：栃木県工業統計

図 1-11 県内における工業の従業者数等の推移



出典：工業統計調査，芳賀町資料（平成23年工業統計調査は未実施）

図 1-12 宇都宮市・芳賀町における工業団地の従業者数の推移

(2) 工業団地の地域への貢献

工業団地の従業者の約7割が宇都宮市と芳賀町に居住しており、また税金の面でも宇都宮市では税金全体（約893億円）の約7%を清原工業団地からの市税が占め、芳賀町では税金全体（約48億円）の約63%を芳賀、芳賀・高根沢工業団地からの町税が占めているなど、これらの工業団地が宇都宮市及び芳賀町の雇用や財政基盤を支える重要な産業拠点となっています。

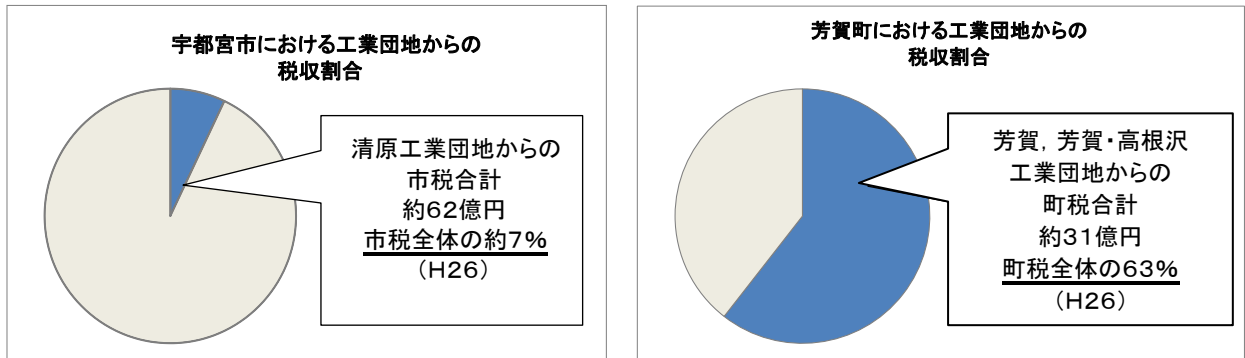


図 1-13 工業団地の市税・町税での貢献